



かがやき

西橋北小学校
学校だより
No.32
平成25年2月8日

1年ぶりの楽しい雪遊び

(文責:後藤 達人)

1月28日(月)は、朝起きて窓の外を見たら、一面の銀世界でした。10cm以上積もっている。車は止めて、電車で登校することに。しかし、恐ろしいほどの乗客数で、もう乗れないと思っている以上に、押し込んでいきます。手に持ったかばんは、はるか向こうに行っています。手も足も体もまったく身動きができません。すごい体験をすることができました。



学校では、子どもたちは登校するや否や、元気よく運動場に飛び出てきて、すぐに雪集め、雪玉ころがしなどを始めました。見る見るうちに、大きくなっていく雪玉。上に乗っかってみたり、友だちの雪玉と合体させてみたり、大きな雪だるまを作ったりと、十分に雪遊びを満喫することができました。

こんなときにでも、子どもたちは、協力を惜しみません。知恵を結集して、どんどんと創造が進みます。出来上がったときみんなの笑顔のすばらしさは、何物にもかえられません。これも大切な絆です。



みんなの笑顔がとてもすばらしく、見ている私も、どんどん楽しさがこみ上げてきます。すてきな天からの贈り物に、学校中が大喜びの日でした。みんなが遊び終わった後に残された巨大な恐竜？が、運動場をのっしのっしと歩いているようでした。久しぶりに満足することのできる雪遊びだったと思います。

1年生がたこあげに挑戦

毎年のように、冬の遊びとして、1年生がたこあげに挑戦しました。見ていると、ずいぶん悪戦苦闘している様子でした。でも、とてもかわいいですね。一生懸命に走って、何とか浮かび上がらせようと努力しています。



また、あちらこちらでは、糸がからみ合い、へこたれかけている子どもも見られます。たこあげ一つとっても、経験量の少なさから、自分たちで考え、工夫して遊びを続けていくことが難しくなっているようです。

今後も、保護者や地域の方々のお世話をいただきながら、子どもたちの体験活動を充実させていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

三重の文化財すごろく

県埋蔵文化センターからの出前授業として、4年生が、三重県内の文化財に焦点を当てた学習活動を行いました。1月25日(金)には、県の職員の方の説明や〇×クイズの後、

ジャンボな「三重の文化財すごろく」が登場し、みんなを圧倒しました。

グループごとに、決められたルールを守りながら、楽しく取り組むことができました。その中でも、「決められた場所で停まったら、みんなで声をそろえて、そこに書いてあることを読む」というルールがありました。すごろくをしなが、グループ全員の気持ちをそろえる必要があり、社会科の学習にも、仲間づくりの学習にも、とてもよい教材だと感じました。

子どもたちは、顔を寄せ合い、夢中になってさいころを振っていきます。ちなみに、このすごろくに登場する四日市の文化財は、「久留倍官衙遺跡」と「とんてき」でした。

普段は、あまり意識もしない文化財ですが、身近なところにも、存在することが分かり、興味や関心を持つようになった子どもたちもいることでしょう。先人の偉業とともに、優れた文化にふれ、また一つ、豊かな感性をはぐくむためのステップとすることができたと思ひます。

